



瓦の種類を知ろう！

屋根は住まいの外観イメージを決める大切な要素です。また、「屋根瓦」は雨や風から家を守る機能も兼ね備えています。

家の屋根といえば「瓦」屋根を思い浮かべます。「瓦」は大きく分けて和瓦と洋瓦に分類されます。最近では瓦以外にも様々な素材がありますが、現在でも「瓦」が採用されるケースが多いようです。そこで今回は「瓦」の種類について解説します。



和 瓦



和瓦は見た目にダイナミックで大きく波打ったような形状が特長です。ほとんどの人が「瓦」と聞いて思い浮かべるのはこの形ではないでしょうか。お寺やお城などにも使われている昔ながらの「瓦」です。

昔は「和形」と呼ばれていましたが、日本産業規格(JIS)が改訂された際に「J形」という名前で呼ばれるようになりました。緩やかな波型のカーブには空気が含まれ、空気の層が生まれることで保温性が高まり、さらに適度な調湿機能、換気機能も生まれます。また特長的な形状や素材には、雨や雪をスムーズに落とす働きもあり、まさに日本の風土にあった瓦と言えるでしょう。

洋 瓦

洋瓦とは海外の住宅で用いられていた瓦で、もともとは輸入が多かったようですが、現在では日本国内で生産されモダンな外観の建物で使われています。オレンジやブラウン、紺色など和瓦に比べカラフルな色合いの製品が多く、近年流行している南欧風住宅を再現するために、「混ぜ葺き仕様」の製品もあります。洋瓦は彩りが豊かで屋根に表情が出やすいため、外観が個性的でおしゃれな印象になります。

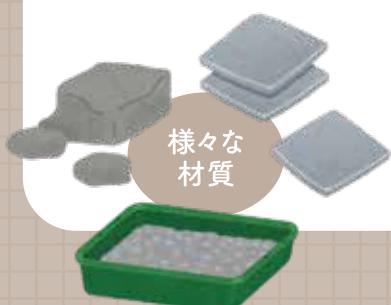
洋瓦のデザインには様々な種類がありますが、代表的なものに凹凸が明瞭で立体感のある見た目が印象的な「S形瓦」、平らなデザインでスッキリとした見た目の屋根に仕上げができる「F形瓦(平板瓦)」があります。

瓦の材質

屋根瓦はその形状により分類できますし、使用している材質によっても分類できます。

● 粘土瓦

粘土を練って焼いて作られた瓦です。釉薬を使って表面をコーティングした瓦と、無釉薬の素焼き瓦の2種類に分けられます。生産している場所によって区別されており、なかでも有名なのが日本三大瓦と言われている三州瓦・石州瓦・淡路瓦になります。粘土瓦は、耐久性・遮音性に優れており、日本の風土に最も適した瓦ですが、一番のデメリットはその重量です。他の屋根材に比べ建物全体にかかる負荷が大きいため、耐震性は劣ります。



様々な
材質

● セメント瓦

主原料がセメントで作られているセメント瓦は、リーズナブルであることが最大の特長ですが、紫外線で塗料が劣化すると、色褪せや吸水が進み、再塗装が必要となります。重さがあるので耐震性に劣り、粘土瓦と比較して耐久性も低いことが欠点です。

● 金属瓦

屋根自体が軽くなるため、災害時の家屋倒壊の危険が減少します。また、継ぎ目が少ないので雨水等が入る隙間も少なくなり、必然的に防水性が高まります。しかし金属素材は錆びやすいものが多く、再塗装などのメンテナンス費用がかかったり、防音性が低く傷がつきやすいといったデメリットもあります。

自分にピッタリの屋根瓦は…？
経験豊富なハウスメーカーに
聞いてみよう！

